

<スライド1>

みなさん、こんにちは、2730 ジャパンカレントロータリーEクラブ  
2013-2015 年度会長の東と申します。

職業分類は地方自治で、鹿児島県阿久根市議会事務局で議事の担当をしております。

きょうは、私たちのクラブの特別代表であります長峯パストガバナーと、本日  
コーディネーターをされておられます岩永パストガバナーが同期ガバナーとい  
うことで、昨年、行いました当クラブ認証状伝達式に遠路お越しいただきました。  
その縁もありまして今日はクラブ奉仕・会員増強セミナーにお招きいた  
だきました。ありがとうございます。

また、ここ 2740 地区は自分にとって大変思い入れの深い地区であり、ロータ  
ーアクトの地区代表をしていた頃に、多くのアクターと交流し、当時6月の最  
後の週に地区大会を行っていた、この地区は、アクター現役生活最後の行事と  
して卒業を迎えた場所であり、今日もその当時のアクターが会場に一人ロータ  
リアンとしていらっしゃいますが、20年経過した今も交流を続けていただ  
いており感謝いたします。

今日は、「九州初のEクラブ会長として」というテーマで、セミナーの貴重なお  
時間をいただきました。

微力ではありますが、Eクラブの可能性の追求の一つとして、お時間一生懸命  
務めさせていただきます。

パワーポイントを使ってお話しさせていただきますが、少々ボリュームがあり  
ますので、時間の関係上、途中飛ばすところもございます。

皆様のお手元には、配布用にしたものをお配りさせていただいておりますので、  
割愛させていただいたところは後でごらんいただければと思います。

よろしく申し上げます。

<スライド2 資料1ページ①>

それでは、さっそく説明に入らせていただきたいと思います。

まず、初めに、創立してから、実際によく耳にする話ですが、まず、Eクラブ  
はWEB上での例会でしか活動をしてしないと思っいらっしゃるロータリア  
ンの方が実に多いということです。

ロータリーEクラブですが、2013 手続き要覧にはこのように記載されてお  
ります。

「ロータリーEクラブは、直接顔を合わせた会合を開く代わりに、主にインタ

ーネット上で例会を開く。Eクラブは、通常のロータリークラブと同様、奉仕プロジェクト、募金行事、親睦活動を行い、従来のロータリークラブが有するすべての権利、特権、要件を有する。」とありますとおり、Eクラブも一つのロータリークラブですので、当然例会のほかに奉仕プロジェクト、募金行事、親睦活動を行う従来のロータリークラブが有するすべての権利、特権、要件を有しております。

<スライド3 資料1ページ②-1> (前パネリストの内容により削除)

まず、Eクラブができた背景ですが、

2001年4月にありました、RIの規定審議会で、試験的プロジェクトの承認を受け、9月の理事会でEクラブを試験的プロジェクトとして承認、2002年1月に初めてのサイバークラブであるロータリーEクラブONEがアメリカで設立されました。

その後、この例会に30分以上参加すればメイクアップとして認められることが決まりましたが、

<スライド4 資料1ページ②-2>

その後、2007年の審議会では日本からEクラブの廃止、Eクラブのメイクアップを認めない提案がありました。この2つの案はどちらも否決されております。

その後、2010年には1つの地区に2つまでEクラブ設立を認め、それも2013年の審議会で撤廃され、現在は1つの地区にいくつでも設立することが可能になっております。

<スライド5 資料1ページ③>

次に私たちのEクラブの概要ですが、

名称を2730 ジャパンカレントロータリーEクラブと言います。

これは、Eクラブの規定に、地区番号を入れること、クラブが所在する場所がわかりやすい名前をつけるというところから、鹿児島・宮崎から流れる「黒潮」の意味を持つ「ジャパンカレント」という名前を開設準備委員長から名付けていただいております。

会員の地域は日本語ができ、ロータリーが存在する全世界の国・地域となっており、参加資格にトラディショナルクラブが行う毎週の例会に身体的、距離的、スケジュール的に参加が困難な方としております。

現在、会員は24名とありますが、今週、新たに、鹿児島に居住する者の入会

が1人ありましたので、25名になっております。2730地区の鹿児島に12名、宮崎に6名、地区外に居住する者として福岡2名、熊本1名、東京2名、神奈川1名、フィリピン1名となっておりますが、全ての会員が何かしら2730地区にゆかりのある者で構成されております。  
例会は月曜の正午～日曜の正午としています。

<スライド6 資料2ページ>

今日は私たちのクラブの成り立ちについて説明をとの要望がございましたので、クラブの創立までと創立後の活動状況について、まとめてきました。

お手元の資料は2ページから4ページに、創立・認証状伝達式に関するもの、クラブに関するもの、地区・分区に関するもの、他クラブに関するものとして分けてあります。

今日はそのうちお手元の資料2ページの創立までの経緯を大まかに説明いたします。

当時の大迫三郎ガバナーが2014年1月29日、日本ロータリーEクラブ2650初代会長を招聘し、Eクラブ設立についての勉強会を行い、Eクラブの設立を示唆され、開設準備室委員長に深尾兼好前地区幹事を指名し、2月9日には地区運営委員会で年度内開設が正式に承認され、その後、4回の開設準備委員会、3回のリアルミーティング、3回のオリエンテーションを重ね、鹿児島西ロータリークラブ、宮崎ロータリークラブをスポンサークラブとして2014年5月22日、日本事務局へ新クラブ申請書を送付、6月23日創立会員数25名で2730地区では65番目、日本国内のEクラブとしては10番目のロータリークラブとして加盟認証となりました。

<スライド7>

創立までの、10回の仮クラブ期間は、月曜の正午から金曜の正午まで例会を開催し、会員の出席率は94.86%、25名の会員のうち23名が100%という結果でありました。

<スライド8>

その後の活動については、多岐にわたりますので、お手元にある資料に掲載しているとおりでございます。

皆様が思い描くインターネットで例会をするEクラブとしては、想像するより活動が多いと思います、地区大会、地区研修協議会はもちろんのこと、地区行事、所属分区行事への参加は年間を通し漏らしたことはありません。

他クラブと合同で行いました青少年献血啓発活動や、自クラブの募金行事であります、ポリオ撲滅のための募金活動であるロータリーデーも11月と6月と年度内に鹿児島と宮崎で2回行っていきます。

<スライド9>

もちろん、Eクラブとして課題もございます。

現在、当地区に1つしかないこのEクラブですが、所属を宮崎県西部分区とされており、これは、霧島を中心とした分区となります。

自分は鹿児島県阿久根市に居住するので、クラブ会合や、分区行事になると通常のトラディショナルクラブに比べ参加するのに時間がかかるということです。通常、クラブ会合に参加するには車で2時間かかりますし、これまで、自分が参加した分区行事の中で、一番時間がかかったところでは5時間かかりました。

その観点からすると、クラブの会合やプログラムへの参加は逆にトラディショナルクラブより大変な面がありますので、地区単位ではなく、県単位や分区単位を念頭に入れた形でのEクラブの設立とそして会員になる者の熱意がなければ、継続していくのに課題が残ると思いますので、クラブ創立には、その辺りも考慮に入れたほうが良いかなと感じております。

<スライド10 資料5ページ②>

次にメーキャップに関してですが、キャンペーンをした一部期間を除きメーキャップフィーは1000円であります。

例会については前年度の2回を含め、創立から6月末まで通算46回例会を行っておりますが、その間に全国から70名の方がメーキャップに来られ、のべ141回訪問していただきました。

ここ、2740地区からも4名の方が4回メーキャップとして訪問いただいております。

ここで、実際に当クラブの例会を見ていただこうと思います。

今から表示するのは、昨年度の第45回例会です。

実際にネットで例会場に入ったところを見せることができればよかったのですが、ネット環境がないとのことでしたので、今日は、PDFにしたものを皆様には見ていただきます。

<画像を開く 通算第45回>

---

- 四つのテスト
- ロータリーの目的
- ロータリーソング  
これはそれぞれ押せば伴奏が流れるようになっております。
- 会長あいさつ
- 幹事報告
- 委員会報告  
この時は地区研修協議会に出席した者がそれぞれ研修内容の報告を行っております。
- メイン記事  
この回では当クラブの研修リーダーであるパストガバナーが研修のまとめとする卓話でした。

これに対し、例会の記事を読み、例会の質問と 150 文字以上 500 文字以内でそれぞれの会員・メーキャップに訪問いただいた方が感想を記載して出席になります。

実際の例会をご覧になって、案外、文字数が多いと思われたと思います。今見ていただいた印刷用の画面で、コメントも含め、A4サイズ17ページです。これは、例会に 30 分以上いないとメーキャップ扱いにならないので、あえて 30 分以上かかる内容にしてあるためです。また、コメントを投稿して、初めて出席が成立しますので、なかなかメーキャップもハードルが高いかと思えます。中には、動画で例会のコンテンツを作成しているクラブもありますが、当クラブの場合、昨年 1 年間は「研修」の意味も込め、ロータリーのことを少しずつ学ぶ 1 年間としましたので、振り返りやすいようにあえて文字だけの 1 年間としました。

時間次第で

<スライド 12-20>活動状況

<スライド 11>まとめ

最後になりましたが、まとめといたしまして。

①つめの会員の確保と②つめの会員の質の向上をあげてみました。

当クラブは 25 名で創立し、これまでの間、4 名の退会者を出し、4 名の入会で現在 25 名です。お手元の資料 1 ページの下、概要の中の創立会員数のとこ

ろに記載してあるとおり、元ロータリアンが4名、元ローターアクターが14名、その他7名ということですが、退会された方はその他の方たちです。理由は、転居をされたり、仕事を変えられたりと理由は様々ですが、創立までにロータリーの基本は、特に出席については、学んでおかなければならないと感じました。

これについては、今後もどのようにして研修体制を組んでいきEクラブで質を上げていくかが重要であると思います。

次に、③つめの活動場所、活動内容の充実ですが、

現在、クラブの理事者は全員フェイスブックを利用しているため、理事会をフェイスブックでおこなっておりますが、信念としてSNSを使わない会員もおりますので、委員会毎に開催方法を年度毎に決めております。また、全会員への連絡はメールとなっており、方法が統一されず、手間となっている部分もあります。

また、事務局はおかず、郵便物は地区事務所を経由させていただいておりますが、事務局員がいないため、事務手続きはすべて自分たちで行っているのが現状であります。

活動内容としては、昨年、1年間他クラブとの合同行事や自クラブの活動も行っているまいりましたが、まだ、委員会、理事会という流れで計画的に組み立てていくこと、また当初からCLPに添った委員会構成を取り入れておりますが、委員会同士がつながりを持たなければ、個人の想いだけでは1つの事業は成り立たず、少しずつ委員会を中心としてクラブを動かすことに慣れていかなければならないと感じております。

④つめの活動資金ですが、入会金3万、会費は半期3万の年間6万であります。その半分はRI負担金、地区負担金という中でどのようにしてクラブの資金を確保するのか重要になってきます。

また、ロータリアンの中にはメーカーキャップを増やせばというアドバイスもいただくのですが、やはり、そこはロータリアンである以上、また、会長職であった以上、トラディショナルクラブも含め、まずは自クラブへの出席することが義務であると思っており、やむなく欠席した時の補填の制度でありますので、盛大に当クラブへメーカーキャップをと言えないところでもありました。

しかし、そうはいつでも今日参加されていらっしゃる皆様も、欠席をされ、近隣のトラディショナルクラブへメーカーキャップに出向くいとまがない時は是非当クラブへの訪問をお待ちいたしております。

最後になりますが、⑤つめのロータリーの三大義務の順守ですが、

雑誌の購読、会費の納入、そして先ほども申しましたが、出席の義務です。雑誌の購読については例会の質問に入れることで、全員何かしら読まなければならない状況は作れますし、会費の納入については、催促すればよい話ですが、出席の義務については1週間例会を開いているEクラブでも、配布した資料の5ページ最初にありますとおり、25名中修正も含め、13名しか100%出席の達成はなりませんでした。その（ ）書きの数が退会者ですが、なかなか、例会に出席いただけなかった方が辞められていった形であり、それが、100%が達成できなかった理由ではあるのですが、もちろん、クラブの雰囲気、会員同士の交流といろいろと策は考えられますが、まずは、入会時に出席について説明をし、理解したうえで入会をしていただくことがまずは第1歩であるのかなと思っています。

以上が、創立会長としてこの1年半活動をさせていただいた内容であります。この間、多くの方々にお力添えをいただき、来ることができたことを改めて実感し、その一つひとつに感謝の念が堪えません。本日、お話しさせていただいたことが、皆様方の何かに少しでもお役に立てることができたらと思います。

何かございましたら、資料末尾にも名刺代わりにプロフィールを掲載させていただきました。また、フェイスブックもオープンにしております、お友達申請も大歓迎ですので、ぜひ交流していただけたらと思います。

これからも、多くの方にご協力いただきながら、感謝した分だけひとつずつ成長し、そしてその都度、奉仕の心を学び、それを自分の職業に活かすことができるようこれから邁進していきたいと思っています。

<スライド21>

以上で私の発表を終了いたします。  
本日は貴重な時間に感謝いたします。  
ご清聴ありがとうございました。